

# 私の戦争体験

## ―徴兵検査、防空壕、疎開

東京 松田春廣

私は現在93歳、脳性マヒがあり、歩くことはできません。

戦争のことはときどき思い出すが、それが考えられると涙が出てきます。

### ●くやししい成人式

1944年に徴兵検査があり受けさせられました。私は障害者なのに、なぜ徴兵検査を受けるのかわかりませんでした。検査の結果は「丁種合格」。4段階の1番下でした。障害者は戦争の役に立たない「非国民」穀潰し」と蔑あざむまれました。それでも恥ずかしく、くやししい思いをしました。国はなぜ障害者の私にそのようなことをするのか、計り知れない怒りを覚ええました。これが私の悲しいくやし

い成人式でした。

### ●戦火が強まるなかで

空襲警報が鳴ると、防空壕に入りました。防空壕には水が出てきていたので、棚を吊つてその上にゴザを敷いて寝ました。冬は寒さをしのぐために練炭火鉢で暖をとりましたが、その練炭で気持ち悪くなることもありました。夏は暑く、蚊やハエがきて夜も眠れません。真っ暗な防空壕の中で、いつ爆撃されるかわからない恐怖で泣きました。空襲は日を追うことにはげしさを増し、母の実家へ疎開することになりました。疎開先での生活は一年半続きました。母の実家は百姓なので田畑をもっていたということもあり、それな

りに食べるものには困りませんでした。私は一日中家で、なすすべもなくゴロゴロしていました。すると近所の人たちや子どもたちが「障害者」の私を見て来ては笑い、私はとても恥ずかしい思いをしました。

### ●戦争を繰り返してはいけない

ようやく終戦を迎え、私たちは家族は東京に戻れることになりました。母は田舎に残り、畑仕事をし野菜や米を作り、東京に持つてきてくれました。父の仕事の1ヵ月500円ほどの給料ではとても生活できず、母の



作った野菜や米を売って生活の足しにしていました。いわゆる闇米というもので、警察に取り上げられてしまうこともありました。上の姉は小学校の先生になり、下の姉は銀行で働いて家計を支えました。当時の生活はそれでも酷く、私が障害をもっていることもあり、両親の苦労は計り知れないものであったと思います。戦争になると何もかも焼く野原になる。このような戦争を繰り返してはいけないと思いました。

現在、日本はアメリカに協力し、自衛隊を送り込んで戦争に参戦しようとしています。現在の戦争で、進化した化学兵器を使うことになればどうなってしまうのでしょうか。もしかしたら世界が、地球がなくなってしまうのではないのでしょうか。憲法を変えたらもう一回戦争が始まります。憲法が変わったらどんなことが起こるかわかりません。だから私は憲法を変えることは反対です。(まつだ はるひろ)